

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	移植適応多発性骨髄腫における末梢血幹細胞採取の後方視的検討
	研究目的	診断の際に合併症のない若年多発性骨髄腫患者さんでは、初期治療の一環として自家移植治療を施行することが推奨されています。末梢血幹細胞採取の前処置として化学療法を併用するか否か複数の方法がありますが、繰り返し PBSC を施行しても十分な幹細胞が確保できない方がいます。また、近年、骨髄から末梢血への幹細胞の遊離を促進するプレリキサホルという薬剤の上市により採取効率は上昇していますが、どのような方に使えばよいか十分にわかっていません。本研究では実際に採取を試みた多発性骨髄腫患者さんを対象に、従来の採取方法による採取の効率およびその予測因子、移植の経過に与える影響を検討します。
	研究対象者	2012年1月から2019年3月に当院で自家移植のために幹細胞採取処置を受けられた多発性骨髄腫患者さん
	研究期間	西暦 2019年 06月 19日～西暦 2020年 03月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	血液・腫瘍内科 医長 高橋 寛行
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	血液・腫瘍内科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	該当なし